



喜びと笑顔に出会うために

News  
Letter

VOL.3

H27.8.1 発行

## ご挨拶

猛暑の候、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今年は戦後70年、戦地に赴いて帰還された方や戦災に遭遇した世代が高齢となり、また鬼籍に入り、その証言を聞くことも難しくなってきました。ある意味において、国防ということ正面から論ずることを避け、ひたすら経済復興を図ってきた日本は、欧米中心世界が崩れ、中国が強大化し、イスラム諸国などの政治的不安定と貧困が世界を揺るがす今、わが国の行くべき先を真剣に考えることをもはや避けられない状況にあります。

辰巳芳子さんは、結婚式を挙げてたった1週間で兵隊に行き帰らなかった夫のことを回想し、こう述べています。「昭和19年の6月 私の主人が行くときには、すでに制海権もまったくなかった。海も空も守りようがない中を、まともな装備もないまま行って、まるでさらし者よね。その挙句に餓死ですよ。これが『英霊』の事実です。まさに拙劣というしかない作戦ですね。で、私がこれをぜひ書いていただきたいと思っているのは、たとえ現政府がそういう拙劣きわまる作戦で兵士の75%を飢え死にさせたのじゃなくても、同じ日本の政府として責任を受け継いでいる以上は、いつの段階かでその家族に詫言しなければならぬ。」「ところが敗戦後これだけの年月がたつのに、いまだかつてきちんと謝った政治家は1人もいない。」（「食に生きて 私が大切に思うこと」辰巳芳子著新潮社より）

日本政府は、果たして、2度とこうした過ちを繰り返さないのでしょうか。真に振り返ることがなければ、次の行動においても同じことが繰り返される恐れが高いことは、よく知られていることです。そして、私たちは、再び、ひたすら沈黙を続け、不可逆点を過ぎたときに、自分たちが最も大事にしている命を、財産を、みすみす失っても我慢をするのでしょうか。私たちは、今でも、やはり政府が(お上が)上手いことやってくれるに違いないと信じているのでしょうか。

子どもたちの笑い声が響く平穏な暮らしを守っていききたい。懸命に頑張っている究極の目標はそこにあります。今日も私たちは私たちの仕事に集中していきます。

私たちの活動の一端をお伝えすべくニュースレターを作成しました。ご高覧ください。

2015年(平成27年)8月

弁護士法人神戸シティ法律事務所 弁護士 石橋伸子

# 未完成のなかの完成形

「喜びと笑顔に出会うために」—— 私たちの事務所は、目標としてこの言葉を掲げています。目指すべき事務所の姿とは、どういうものなのか。お客様とお会いする会議室と、執務室とをつなぐ受付担当の行方(なめかた)が、あらためて代表弁護士の井口に尋ねました。

●**行方** ここで受付として働き始めて、4年になります。あらためてこの事務所が目指すものをお聞きしたいと思えます。神戸シティ法律事務所は、法律事務所としてどのような特色があるとお考えですか？

●**井口** まずは神戸、兵庫県という地域に根差し、もっとも信頼される法律事務所を目指しているところだと思います。特色といえば、弁護士もスタッフもほんとうに一丸となって、ひとつひとつの業務に前傾姿勢で取り組んでいる自信がありますね。



●**行方** 「前傾姿勢」というのはどういうことでしょうか。

●**井口** 弁護士というのは、これまで訴訟活動中心という狭い領域において業務を行っていたものですから、どうしても「訴訟で解決しましょう。」とか、「とりあえず裁判所に持ち込みましょうか。」という姿勢で仕事に取り組んでいることが多いのです。しかし、うちは、紛争もしくはそれに至らない日常のトラブル、あるいは悩みごとレベルの問題について「解決という目標」を設定し、その目標に向かって、どういう動きをすればよい方向に向かえるのかということをシミュレートしていくことを重視しています。これを、待ちの姿勢ではないという意味で「前傾姿勢」と表現しています。

●**行方** 毎日テレビ等で裁判が報道されない日はありません。訴訟で解決するという事は、とても重要なことですね。

●**井口** もちろんそうです。法治国家において、私たち弁護士が司法活動の一翼を担っている以上、訴訟を中心とした紛争解決システムの当事者であることは間違いありません。ただ、極端に言いますと、訴訟活動あるいは裁判所を中心とした業務とそれに加えその事案についての判決を予測することを中心とした「判決予測法務」で終わってしまいがち、あるいはそうしたところに陥りやすいということなのです。弁護士事務所に行って、「そうですね。こちらの主張としては〇〇が考えられますね。証拠もそろっている。あなたの主張は認められると思いますよ。」あるいは、「証拠が不十分ですね。やってみなければなんとも言えませんが、相当難し

いんじゃないでしょうか。」 「それでは訴訟になったらまた来てください。お大事に。」という対応をされた、と言われる方は、今でもいらっしゃいますし、それではまずいと考えているわけです。また、今、うちにご相談いただく方々は、みなさん、インターネットを駆使して、すでにある程度の調査をされて来られています。みなさん、だいたいの方々は、自分の勝訴、敗訴の予想なんかはご自分で判断できていることが多いんですね。

●**行方** 難しいと思っても、インターネットで相談コーナーなどを利用すれば、簡単に回答をもらえますもんね。

●**井口** そうなんです。だから、私たちは、お客様がどのように解決したいのかということをお聞きします。そして、お客様が「それだ！」と納得される目標を、最優先の目標、次善目標、最低限の目標というように、いくつかの目標段階を設定します。そして、その目標に向かう道筋をいくつかシミュレーションします。自分の動き、相手の動き、相手に弁護士が就いたときの弁護士の動きなど。その問題の事実の経過や証拠などを基礎としながら、ひとつひとつ道筋を共有していきます。

●**行方** 会議の際に、ホワイトボードを使って、チャート図やマトリクス表を描いているのは、そのイメージをもっていたためなんですか。

●**井口** はい。弁護士が考えていることと、お客様の考えていることとの間に齟齬があつてはいけません。今の問題点や将来の動き、流れなどをイメージとして共有していただくことはとても大事です。

●**行方** お客様と問題解決の目標を共有できたら、その実現に向けてどのように進めていくのですか？

●**井口** 設定された目標を共有して、その目標に向かって、ひとつひとつ駒を進めていくイメージですから、「とりあえず〇〇しましょう」というのではなく、「〇〇だから、まずは□□しましょう。」という言葉でご説明しています。必ずしも訴訟や裁判所を利用して問題を解決するというものではなくて、目標に向かって動いていくことで、訴訟に至る前に解決してしまうという感じです。できるだけ、訴訟をすることは回避したほうが良いですからね。

●**行方** 「訴訟を回避していく」というのは、どういうことなのでしょう。

●**井口** お医者さんでも、いつも手術しましょうとは言わないですよ。訴訟をするなど裁判所を利用するというのは、いわば外科手術をするに等しいと考えています。体質改善が必要な方に、外科手術を勧めるお医者さんはいないですよ。ただ、慢性化しているから、ほうっておきましょうというお医者さんもないはず。お薬を出したり、健康回復の



ためのアドバイスはしてくれます。「もうちょっと悪くなって、手術をする段階になったら来てください。」というお医者さんがいたら、そのお医者さんとは信頼関係が結べないでしょう。弁護士が「訴訟になったらまた来てください。お大事に。」と言うのは、これに近いと思うんです。

●**行方** 確かにそのとおりです。もうちょっと悪くなってから来てください、というのは、ありえませんよね。だから、待ちの姿勢ではなく、前傾姿勢で取り組む、ということなんです。

●**井口** はい。そしてその前傾姿勢というのは、結局、なんとかその方の悩みや問題を解消していきたいという「思い」や「熱意」に根ざすものだと思うんですよね。受け身ではなく、積極的にかかわっていきこうという思いです。

●**行方** あの、思い切って聞きますが……そんなことは、弁護士である以上、当たり前のことではないのでしょうか？

●**井口** それがそうでもないんです。クライアントの方と目標を共有し、その目標に向かってシミュレーションをし、クライアントと弁護士と一緒に、まさにチームとして活動していく。これは、そう簡単なことではないんです。もし簡単なら、既にどこの事務所でもできているはずなんです。



●**行方** なぜ、そんなに難しいのでしょうか？

●**井口** それは、次の3つの力がそろわないと出来ないことだからです。一つは、強烈な思い、熱意。そしてサービス精神。これがなくては前傾姿勢になりません。

弁護士だけではなく、事務所のスタッフが一丸となっていることがその前提なんです。もう一つは、「ごくごく普通の人間の感性と想像力」。その問題をまっすぐみ、さてどう思うか。普通なのか、異常なのか、違和感があるのか、ない

のか。そういう人間的な感性が、とても大事です。この感性が、事実の認定や相手の行動の分析に生きてきます。そして三つ目に大事なものは、これを論理的に構成する力と表現力なんです。

●**行方** 神戸シティ法律事務所では、それができているのでしょうか。

●**井口** これは究極の技です。完成形です。だから、とにかくまず、弁護士とスタッフが、それをひたすら目指しています。思うこと、共有することを全員で取り組んでいます。そして、日々研究しています。事案検討会という会議を定期的に関き、「さて、どう思う？」「どうなる？」「どうする？」これを繰り返しています。



●**行方** じゃあ、まだ完成形までは行っていないと？

●**井口** そうです。未完成のなかの完成形です。うちの事務所の弁護士、スタッフには、その完成形がはっきりと見えているはずなんです。

●**行方** 事務所を受付をしまして、多くの方々が、笑顔で帰っていくことがほんとうに多いことは実感しています。

●**井口** 未完成ながらも、すでに新しい弁護士像を感じただけだと思っています。理想的な方向を目指すんだ、そういう気持ちで長年取り組んできましたが、そのDNAは着実に形成できてきていると考えています。まだまだ未熟な法律事務所ではありますが、いつか、必ず完成させたいと思っています。その形を想像すると、もうわくわくしてきます。

●**行方** そうですね。私もこの完成形を実現するために、これからもがんばっていきこうと思います。

(代表弁護士 井口寛司、 受付 行方和田)

## ホームページのご紹介

皆さま、当事務所のホームページをご覧になったことはありますか。当事務所のホームページは、当事務所の弁護士情報はもちろん、ブログ、コラム、ニュースなど、様々なコンテンツを設けています。

更新が滞りがちなコンテンツもあるのですが、ブログには特に力を入れています！

今年よりカテゴリーを少し修正し、新たにアジアカテゴリーを設けました。アジアカテゴリーは、ミャンマーデスクからのミャンマーの最新情報や、アジア諸国への視察の記録、国内でのアジアセミナーの報告など、盛りだくさんの内容です。ぜひご一読いただければと思います。

また私は、当事務所主催セミナーの企画・運営も担当しているのですが、セミナー開催が決まるとホームページにいち早く詳細を掲載しております。様々な内容のセミナーを企画しますので、チェックいただければと思います。そのほかにも弁護士高島によるリーガルコンパスのコラムは、最新の法律問題をわかりやすく解説しており、ご好評いただいております。

当事務所のテーマカラーであるブルーを基調とした爽やかなページより、最新の情報をお伝えしてまいります。

これからもどんどん内容を充実させていきたいと考えております。

(事務課 吉田瑛子)